

1. 猪川元興（気象研究所）：
メソスケールの山岳を越える流れ
2. 菊地勝弘（北大理）：
北海道オロフレ山系南東斜面の降雨特性
3. 藤吉康志（名大水圏研）：降雪と地形
4. 藤部文昭（気象研究所）：
関東地方に現れるメソスケール前線の気候学
5. 小倉義光（日本気象協会）・永田 雅（気象研究所）・田畑 明（気象研究所）：
山を越える寒冷前線のメタモルフォーゼの事例解析
一重力流から pre-frontal sbuall line まで
6. 万納寺信崇（気象庁）：数値モデルが表現する地形の影響

- 代表世話人 小倉義光：日本気象協会
世話人 菊地勝弘：北海道大学理学部
武田喬男：名古屋大学水圏研究所
高橋 劭：九州大学理学部
坪木和久：東京大学海洋研究所
近藤裕昭：公害資源研究所
栗原和夫：気象庁
檜尾守昭：気象庁
榊原 均：気象研究所
吉崎正憲：気象研究所
事務局担当世話人 坪木和久：東京大学海洋研究所
03-3376-1251
吉崎正憲：気象研究所
0298-51-7111

シンポジウム「オゾン研究の展望」開催のお知らせ

講演企画委員会

共 催：日本気象学会，地球電磁気・地球惑星圏学会
日 時：1991年4月4日（木） 13：30～17：00
場 所：共立女子大・八王子校舎（東京都八王子市）
案 内：JR 中央線高尾駅，共立女子大・循環スクール
パス（無料）

趣 旨：

大気オゾンについての関心は，今や大衆レベルにまで広がっている。しかし，オゾンに関する科学的知見のレベルは，必ずしも十分なものではなく，オゾンホールの原因も不明な点が多い。それゆえ，今の時点でオゾン研究の現状を再点検することが大切であると考えられる。このような認識に立って，オゾン研究の専門家にオゾン科学の諸問題をレビューして頂く。「合同大会」に合わせて行う共催シンポジウムでもあるので，専門外の方々にも多数参加して頂けることを念願している。

問合せ先：木田秀次（気象研究所）

プログラム

1. 「オゾン研究の歴史的経過」
関口理郎（気象協会）
2. 「オゾン定常観測と観測網」
松原廣司（気象庁観測部）
3. 「オゾンの観測技術」 鈴木勝久（横浜国大）
（休憩）
4. 「オゾンと大気大循環」川平浩二（富山高専）
5. 「大気化学組成のグローバルな循環
からみたオゾンホール」
岩坂泰信（名大 STE 研）
6. 「オゾンの数値モデル」佐々木徹（気象研）
7. 総括 司会・近藤 豊（名大STE研）